

インドの経済発展 —サービス産業主導型成長とメイク・イン・インド政策—

倉敷芸術科学大学危機管理学部 教授 山中 高光

インドの経済発展 —サービス産業主導型成長と メイク・イン・インド政策—

倉敷芸術科学大学危機管理学部 山中高光
2017/11/18 於：専修大学

1

はじめに

- 本稿の目的は、インドの経済成長の特徴—サービス主導型成長について、公表データの観察からの事実確認を基に、課題を把握し、現モディ政権のメイク・イン・インド政策の意義と課題を提示すること。
- インドのサービス主導型成長は経済の底上げにつながらず、経済成長の歩みはなかなか速まらない。
- **メイク・イン・インド政策は的を射る政策！？**日本の高度経済成長期のイメージ(「投資が投資を呼び、大量生産・大量消費・大衆消費社会、一億総中流・・・」)旺盛な内需に対して国民の手で生産し国民が消費する循環の拡大の中で、国際競争力を獲得し後期には国際収支の天井から解放、途上国から先進国へ)からすると
- 以下では、インドの経済発展とサービス主導型の成長を概観しその問題点を示す。メイク・イン・インド政策を概観しその課題を示す。

2

1. インド経済の概観

- 経済発展の成果が国民全体に行き届いていないのでは(表1)：インドは1947年にイギリスから独立した。1950/51年度から2010/11年度の間、人口は3.3倍に、実質GDPは17.8倍、一人当たり実質GDPは5.4倍、一人当たり実質民間最終消費支出は3.8倍に。
- インドは経済発展によって、国民生活が改善したが、その歩みが遅く、識字率が2010/11年度で74%であるように、社会的基盤が国民全体に備わってないように見える。
- インド経済は今後中期的には世界で最も高成長と予測(図1, 2)：高い成長と経済規模の拡大。インドへの期待は続く。
- 遅い貧困の改善(図3)：改善の歩みが遅い。

3

表1 実質GDP、実質個人消費、識字率などの推移

年度	人口 (百万人)	実質GDP1 (十億ルピー)	実質民間最終消費支出1 (十億ルピー)	一人当たり実質GDP1 (千ルピー)	一人当たり実質民間最終消費支出1 (千ルピー)	平均余命2 (歳)	識字率2 (%)	一人当たり国内総生産 (購買力平価換算、 $\times 10^3$)
1950/51	359	2939.4	2448.9	8.19	6.82	32.1	18.3	-
1960/61	434	4360.4	3578.0	10.05	8.24	41.3	28.3	-
1970/71	541	6443.9	4777.0	11.91	8.83	45.6	34.5	-
1980/81	679	8663.4	6615.6	12.76	9.74	50.4	43.6	879.4
1990/91	839	14876.2	10008.7	17.73	11.93	58.7	52.2	1209.8
2000/01	1019	25540.0	15792.0	25.06	15.50	62.5	64.8	1722.1
2010/11	1186	52368.2	30721.2	44.16	25.90	63.5	74.1	3038.8

注) 実質値：2004-05基準(なおRBI(2012)によると、2004/05年度平均で、1ドル=44.9ルピー、100円=41.6ルピー)。変化率：期間内の幾何平均。1人当たり国内総生産(購買力平価換算)：実質2005年ドル。なお、2010年度、中国：6818.7、日本：30965.4、アメリカ：42078.6(千ドル)である。
出所) 1：Reserve Bank of India, Handbook of Statistics on Indian Economy 2011-12、1及び3A表、2：Government of India, Ministry of Finance, Economic Survey 2011-12、0.1表、3: World Bank WDI 2012より作成。

4

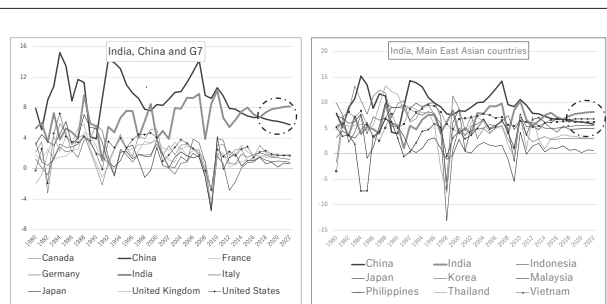


図1 実質経済成長率の推移と予測
注) 2017年以降は予測値、インドは2018年以降出所) IMF, World Economic Outlook, October 2017

5

インド経済の高成長と予測

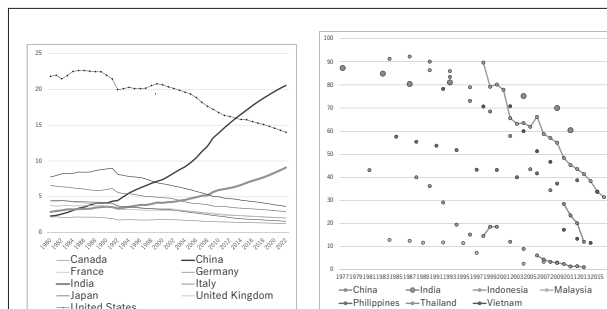


図2 世界のGDPに占める割合 (PPP)
注) 2017年以降は予測値、インドは2018年以降出所) World Bank, World Development Indicators 2017

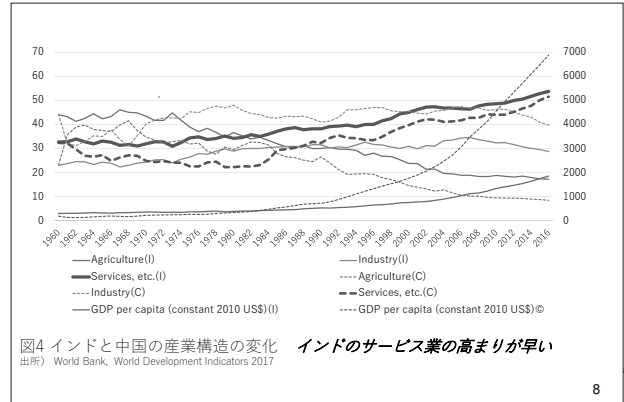
図3 貧困率の推移
注) 貧困率は2011年pppで1日3.2ドルの指標による出所) World Bank, World Development Indicators 2017

6

2. インドのサービス主導型成長

- インドの経済成長(図1、表2各票の右端)：ヒンズー成長率といわれる人口成長をわずかに超える低成長の時代。1980年代、限定的な経済の自由化、90年代「新経済政策」、成長率の傾向的な高まり(改革の余地が大きく、改革が遅い)。
- インドの経済成長の特徴：①サービス主導型、②内需主導型
- サービス主導型の経済成長：「新経済政策転換以降のインド経済の高成長は、サービス産業(とりわけITサービス産業)の輸出によって牽引されたものである」(経所2010)
- インドの経済成長、中国との比較(図4)：インドの経済成長はサービス主導型
- GDP統計から(表2)：成長産業上位3位
 - 旧：90年代以降「交通運輸・通信」「金融、保険、不動産、ビジネスサービス」、「商業・ホテル・レストラン」(2000根代では4位)
 - 新：2010年代前半「商業・ホテル・レストラン」「金融」、「不動産、ビジネスサービス」

7



8

産業	農業	鉱業	製造業	電力・ガス・水道	建設	商業・ホテル・レストラン	交通運輸・通信	金融、保険、不動産、ビジネスサービス	コト、社会および個人サービス	GDP at factor cost
1950s	2.7	4.6	5.8	10.7	5.8	4.8	5.6	3.1	3.5	3.6
1960s	2.5	6.2	5.9	11.4	7.2	5.2	5.8	3.2	5.2	4.0
1970s	1.3	3.1	4.3	6.9	2.0	4.3	5.8	4.3	4.1	2.9
1980s	4.4	8.7	5.8	8.5	4.8	5.9	6.0	8.7	6.0	5.6
1990s	3.2	4.9	5.8	7.3	5.6	7.5	8.6	8.4	6.5	5.8
2000s	2.5	4.4	8.0	5.7	9.3	8.6	11.6	9.0	6.6	7.2

表2-1 各年代の産業別平均実質成長率

注) 単純平均
出所) Ministry of Statistics and Programme Implementation, Summary of macro economic aggregates at constant(2004-05) prices, 1950-51 to 2013-14から作成

9

産業	農業	鉱業	製造業	電力・ガス・水道	建設	商業・ホテル・レストラン	交通運輸・通信	金融	不動産、ビジネスサービス	行政と国防	その他のサービス	TOTAL GVA at basic prices
(2011-12)												
(2015-16)	1.9	5.7	7.4	4.7	3.2	9.2	8.5	8.8	11.5	3.8	7.5	6.7

表2-2 各年代の産業別平均実質成長率(2010年代前半)

注) 単純平均
出所) Ministry of Statistics and Programme Implementation, National Accounts 2017 から作成

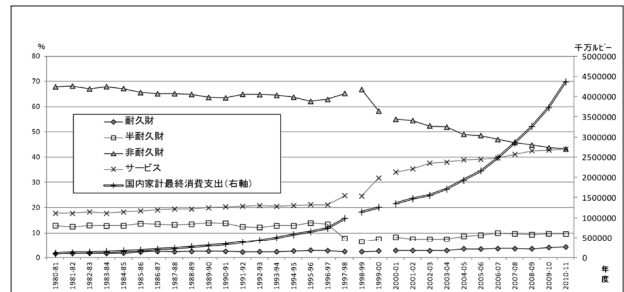
10

インドでは需要面からみてもサービスが主導

○GDP統計からみると(図5, 6)

- インドでは、耐久消費財への支出割合の低迷が続き、サービスは、2010-11年度くらいで、形態別の中でシェアトップに(図5)。
- 日本では高度経済成長の終盤にサービスのシェアが最大に、経済のサービス化とそれへの対応が議論され始めた(図6)。
- インドでは需要面からみて所得水準が低い段階からサービス支出の拡大が主導していることをうかがわせる。

11

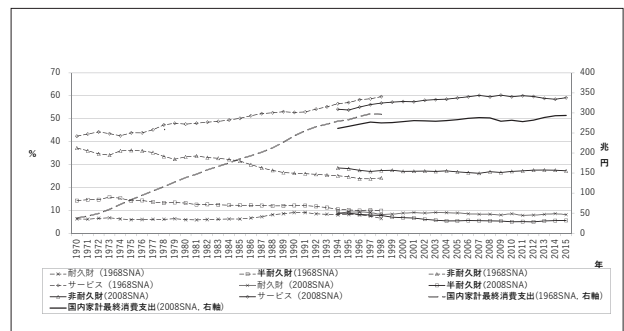


12

○家計支出調査からみると(山中2014)

- 1987/88年から2009/10年までの5回の調査。農村部と都市部両地域で所得水準は向上したが、格差は拡大し、両地域で「食料」のような必需的な項目の支出割合の低下、「その他の財貨・サービス」や「耐久財」のような選択的な項目の割合の上昇、前者の方が後者より大。
- 2004/05年と09/10年の2時点間の比較：サービス支出の支出割合が経済発展の早い段階から高い、高成長の中で新しいサービス(携帯など)が生まれる一方、古いサービス(鉄道)への支出縮小が進み、全体としてサービス支出が拡大
- 「消費者サービス(交通除く)」の費目にある、インドの家庭における様々な使用人の存在である。これをどうとらえるかは難しいが、これがインドのサービス支出の支出を高めていることは明らかである。インドの社会構造もインドのサービス支出の高さの要因の一つと考えられる」(p.109)。
- 日本ではどうだったのか？高度成長で賃金が上昇、労働移動が活発化、使用人がいる家計および支出割合は減少したのではなからうか？

13



14

3. インドのサービス主導型成長の問題点

- ・雇用なき成長：
「高度成長を達成し、また産業のサービス化が急速に進展しているわりには十分な雇用が生み出されていないという傾向は持続しているように思われる。とくに気になる点は、99年度から04年度にかけて都市男性の正規雇用比率が減少しており、また職業形態別の分配にほとんど変化が見られないこと」(絵所2010、p202)
「非常に多くの多様な職種を抱えているサービス業のなかでも、より伝統的で労働集約的な部分ではなく、ソフトウェア開発、金融サービス、その他の専門的な職種のような技能集約的な部分に、成長の大部分が偏っている証拠がますますみられるようになっていく。その結果、・・・労働人口の大部分は、賃金と生産性が低い・・・農業やその他の部分(インドの労働人口の90%以上を雇用している「インフォーマルセクター」はこの中に含まれる)は置き去りにされたまま」(Drèze=Sen 2013、訳p.67)
- ・上記の山中[2014]は一つの証左か？
- ・雇用をいかに生み出すか

15

4. メイク・イン・インド政策

- ・モディ首相が2014年9月24日に正式に“Make in India (メイク・イン・インド)”政策を発表
- ・Make In India Main Brochure (https://www.indembassy-tokyo.gov.in/Make_In_India/Main_Brochure.pdf)
 - ・分野：自動車部品自動車航空バイオテクノロジー化学建設防衛製造電気機械電子システム設計・製造食品加工ITおよびビジネスプロセス管理(BPM)皮革メディア・娯楽鉱業石油&ガス製薬港湾鉄道道路・高速道路再生可能エネルギー宇宙繊維火力発電観光・ホスピタリティ健康
 - ・新しい優遇措置、進行中のプロジェクト、産業大動脈、政策に関する資料、FDI政策国家製造業政策

16

- ・メイク・イン・インド政策は的を射る政策！？日本の高度経済成長期のイメージ(「投資が投資を呼ぶ」、大量生産・大量消費、大衆消費社会、一億総中流・・・)：旺盛な内需に対して国民の手で生産し国民が消費する循環の拡大の中で、国際競争力を獲得し後期には国際収支の天井から解放、途上国から先進国へ)からすると
- ・批判の一つ
 - ・“Make for India better approach than Make in India”(Rajah, R [2014])
 - ・著者の思い付き：見本は日本の前期高度経済成長期：労働移動の活発化と旺盛な国内需要を潜在成長力の強化に。Make in and for India! ?

17

おわりに

- ・本稿の目的は、インドの経済成長の特徴ーサービス主導型成長と現モディ政権のメイク・イン・インド政策の意義と課題を提示すること。公表データの観察からの事実確認を基に。
- ・インドのサービス主導型成長は経済の底上げにつながらず、経済成長の歩みはなかなか速まらない。
- ・メイク・イン・インド政策は的を射る政策！？日本の高度経済成長期のイメージ(「投資が投資を呼ぶ」、大量生産・大量消費、大衆消費社会、一億総中流・・・)：旺盛な内需に対して国民の手で生産し国民が消費する循環の拡大の中で、国際競争力を獲得し後期には国際収支の天井から解放、途上国から先進国へ)からすると
- ・“メイク・フォー・インド”であるべき (R.Rajhan)
- ・Make in and for India! ?
- ・今後の問題：Hallward=Nayyar [2017]. *Trouble in the Making?: The Future of Manufacturing-Led Development.*

18

参考文献

- 絵所秀紀 [2010] 『グローバル化するインド経済ーその背景、成長の特徴、インパクトー』『社会システム研究』第20号3月pp.191-213.
- 山中高光[2013] 「インドの個人消費支出の動向について」『アジア市場経済学会年報』第16号。
- 山中高光[2014] 「インドの家計消費パターン動向について」『アジア市場経済学会年報』第17号。
- Drèze, J. and A Sen [2013] *An Uncertain Glory: India and its Contradictions*, Princeton University Press. (羨一樹 訳『開発なき成長の限界-現代インドの貧困・格差・社会的分断』明石書店、2015年)
- Eichengreen, B. and Poonam Gupta [2013] “The Service Sector as India's Road to Economic Growth”, NBER Working Paper No. 16757.
- Hallward-Driemeier, Mary; Nayyar, Gaurav. [2017]. *Trouble in the Making?: The Future of Manufacturing-Led Development*. Washington, DC: World Bank. ()
- Nayyar, Gaurav [2009] “The Demand for Services in India. A Mirror Image of Engel's Law for Food?” Discussion Papers, Department of Economics (University of Oxford).
- Rajah, R [2014] “Make for India better approach than Make in India” [livemint\(www.livemint.com/\)](http://www.livemint.com/) (Fri, Dec 12 2014)
- Rajan, R [2017] “Govt's export-led growth strategy a failure so far” (Sep 07 2017)

19

ご清聴ありがとうございました

20